



▲アベレージは30~35センチ級
▼ピンクの魚体が秋晴れの空に映える



▲取り込みは小型ならハリスをたぐって抜き上げる。良型の場合はタモ入れしよう



▲40センチ近い良型も顔を出した
▶仕掛けの全長が2メートルなら、タナは底から1メートルが基本。上下に誘ってアタリを出そう



▲全員、秋の初物を確保



▲片テンピンハリス3号2メートルの2本バリ仕掛けにオモリ60号。潮が速ければ80号も使用する。付けエサはオキアミ



▲オキアミエサが回転しないよう、真っすぐていねいに付ける



▲オニカサゴもオキアミに食いつく



▼ヒメコダイがいる所にアマダイもいると言われている



▲ホウボウも交じった



▲ソコイトヨリも定番ゲスト



★相模湾のアマダイは9月から多くの船宿で出船開始。どこも順調な釣れ具合を見せている

相模湾腰越港出船 相模湾のアマダイ 上々の滑り出し!

撮影●鈴木良和



▶当日の釣り場は腰越沖の水深70~90メートル



▲本命であれば巻き上げ途中でゴンゴンと竿先をたたく

青物人気の冷めやらぬ相模湾だが、着実に秋の訪れを感じさせる釣り物も始まっている。その一つがアマダイ。相模湾腰越港の孝太郎丸では9月から乗合船をスタート、取材はその初日で、腰越沖の水深70~90メートル前後を狙った。釣れるサイズは25~40センチまで幅があったが、アタリは頻繁で一人3~5尾と全員が顔を見られた。アマダイのほかヒメコダイ、ソコイトヨリ、ホウボウ、トラギス、ムシガレイ、オニカサゴなど多彩なゲストも交じり、上々の滑り出しとなった。相模湾のアマダイ釣りは、これから秋〜冬にかけてトップシーズンを迎え、来春までロングランで楽しめる。今期もファンへの期待に応えてくれることは間違いないだろう。(詳細は52ページ参照)

